

バイオIT関連人材 派遣社員・契約社員雇用の実態

2004.8.18

株式会社スタッフジャパン
テクノサイエンス事業部

I . 契約社員と派遣社員 どう違うか？

契約社員の場合

- 採用先(企業・研究所)との直接契約
- 公開されている採用情報の中から自分で応募する
- 研究・解析的な内容、技術的な内容等 採用先プロジェクトにより異なる
- 採用先給与規定に準じる

派遣社員の場合

- 派遣会社(雇用元)の派遣社員として派遣先企業・研究所で就業する
- 非公開の求人情報(比較的急ぎの内容が多い)が多数有る
- 研究員をサポートする立場の業務内容が多い
- 時給制中心 2,000円/時間±500円(経験・能力による)

Ⅱ. どのような研究所から求人依頼があるのか？

(派遣社員として)

1. 公的研究機関

遺伝子 ・ タンパク質 ・ SNPs等で比較的網羅的研究を行っているプロジェクトが多い

2. 大手製薬 ・ 食品 ・ 化学メーカー研究所

依頼は時々あるが、業務内容はかなり限定的なもの
契約社員であればより高いレベルの内容があるが資格要件・競争は厳しい

3. 創薬支援ベンチャー

依頼数はそれほど多くはないが、高いレベルの内容もある
紹介予定派遣（派遣契約終了後、双方同意の場合に限り派遣社員での社員採用となる）

Ⅲ.どのような求人依頼があるのか？

1: 公的研究機関)

大規模塩基配列解析プロジェクトにおけるコンピュータ業務

大量データの管理、DB構築、品質管理、算出データの解析処理、
プライマー設計システムの構築、Web、CGIなど作成 使用言語Perl必須、
C、Java、SQL等スキルがあれば尚良い、使用環境UNIX、Windows、
分子生物学の知識ある方歓迎
実験スタッフと円滑なコミュニケーションが取れること

2: バイオベンチャー)

データベースを利用したクライアントサーバー的アプリケーションの開発
各種公共生物情報データベースに関する知識とそれらデータ処理技術
データベースシステムの管理
グラフィックアプリケーションの開発

計算機科学に関する知識があることが望ましく、3年以上の実務経験が必要
学歴・年齢は不問だがバイオインフォマティクスに興味を持てることが重要

IV.「紹介予定派遣」とは？

契約終了後、派遣先と本人の同意がある場合派遣先社員として採用される

メリット

- 本人にとって  社員採用のチャンス有 派遣先の就業環境や業務内容を見極め
上で判断できる
- 派遣先にとって  派遣社員の能力・適性・仕事に対する意欲を確認した上で採用を
える
- 派遣会社にとって)  派遣先に人材紹介料を請求できる

留意点

1. 採用となった場合の就業条件(待遇・業務内容・勤務時間等)を事前によく確認する
2. 採用保留となった場合の対応→ 理由を確認することが重要(見極めに時間必要、社内事情、本人の能力不足等)
 - 再度派遣契約を更新し、次回更新時に期待する
 - 契約を終了する